

高崎市文化財調査報告書 第247集

# 上大類・川押遺跡 2

— 携帯電話用無線基地局建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

2009

高崎市教育委員会



# 上大類・川押遺跡 2

— 携帯電話用無線基地局建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

2009


高崎市教育委員会



## 例 言

- 1 本書は、携帯電話用無線基地局の鉄塔建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 本書の遺跡名は「上大類・川押遺跡2」である。遺跡番号はNo.439である。
- 3 本遺跡の所在地は、群馬県高崎市上大類町川押64番地である。
- 4 発掘調査は、株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ群馬支店の携帯電話用無線基地局建設に伴い、埋蔵文化財の記録保存が必至となったため行うこととなった。
- 5 発掘調査及び整理作業から本報告書の刊行までの費用は、株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ群馬支店の負担で行った。
- 6 調査体制は、以下の体制で行った。  
高崎市教育委員会文化財保護課 田口一郎・須田奈保子・角田真也  
有限会社高澤考古学研究所 高階敏昭
- 7 発掘調査は平成21年4月20日から平成21年4月24日までの期間で実施した。調査面積は49㎡である。
- 8 本書の編集作業は高階敏昭が行った。執筆はIが高崎市教育委員会の田口一郎、その他を高階敏昭が行った。
- 9 発掘調査・整理作業に伴い、各作業を以下のとおり委託した。
  - ・基準点測量作業は田中隆明に、遺構平面図、断面図の作成は田中隆明・山際哲章に委託した。
  - ・デジタル編集作業及び遺物の写真撮影作業は山際哲章に委託した。
- 10 発掘調査及び整理作業に従事された作業員は以下のとおりである。(敬称略、50音順)  
大竹 節・澤田美枝子・澤田恵美・関口佳紀・内山久男。
- 11 本書作成にあたり多くの方々のご指導・ご協力をいただいた。記して感謝の意を表するものである。(敬称略、50音順)  
株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ群馬支店・株式会社協和エクシオ・秋本太郎・笹澤泰史・澤田修・澤田福宏・高階宣男・富岡昭晴・山下工業株式会社。
- 12 本調査で収集した資料及び出土遺物は一括して高崎市教育委員会が保管している。

## 凡 例

- 1 本書に使用した地図は、国土地理院発行1/25,000地形図『前橋・高崎』、日本地図センター発行明治前期測量2万分1フランス式彩色地図を80%縮小、国土地理院発行の1/2,500を使用した。
- 2 遺構平面図の北方向は座標北方向を、水準線は標高を示す。座標は国家座標IX系を使用した。
- 3 本書に掲載した各遺構図、遺物実測図、遺物写真の縮尺は各図下に記載した。
- 4 土層注記及び遺物の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局・(財)日本色彩研究所監修『新版標準土色帖』を参考にした。
- 5 実測土器の中で口縁部の残存率が1/2未満の為、復元実測をしたものは、土器内面の口縁部線を中軸線から離して実測図を作成している。
- 6 遺物観察表の計測値の〈 〉は残存値を表す。
- 7 遺物番号は、図面・写真図版、観察表ともに統一してある。
- 8 本報告書の本文、土層注記で使用した火山噴出物は、浅間A軽石：As - A、1783年降下。浅間B軽石：As - B、1108年降下。FP軽石：榛名山二ツ岳降下軽石(Hr - FP)：6世紀中頃。FA軽石：榛名山二ツ岳降下火山灰(Hr - FA)、6世紀初頭頃降下。浅間C軽石：As - C、3世紀後半。浅間YP軽石：浅間板鼻黄色軽石(As - YP)、約13,000年前降下。
- 9 遺構平面図の旧河川跡で使用したトーンはである。



# 目次

例言

凡例

I 調査に至る経緯	1
II 調査の方法と経過	1
III 遺跡の立地と環境	4
IV 基本堆積土層	6
V 検出された遺構と異物	8
VI まとめ	11

抄録

参考文献

写真図版

## 挿図目次

第1図 遺跡の位置と周辺遺跡図	2
第2図 遺跡の位置図	2
第3図 基本堆積土層柱状図	6
第4図 遺跡位置図	6
第5図 遺構平・断面図	7
第6図 出土遺物図	10

## 表目次

第1表 周辺遺跡一覧表	3
第2表 周辺の中世城館詳細表	5
第3表 遺物観察表	9

## 写真目次

PL. 1 遺跡遠景 北東から 調査区全景 北西から	PL. 3 1号溝 底面状況 西から 1号土坑 全景 北から 2号土坑 全景 北東から 旧河川跡 堆積状況 北西から 旧河川跡 堆積状況 北から 基本堆積土層1(調査区北東隅) 南から 重機稼動状況 北から 作業風景 南東から
PL. 2 1号堀 セクション 西から 1号堀 底面状況 西から 1号堀東側 礫出土状況 西から 1号堀西側 鉢・礫出土状況 東から 1号堀 鉢出土状況 南西から 1号堀 片口鉢出土状況 南西から 1号堀 鉢出土状況 北西から 1号溝 セクション 西から	PL. 4 出土遺物写真



# I 調査に至る経緯

## 1. 調査の方法

平成20年11月、株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ群馬支店（以下事業者）より高崎市教育委員会（以下市教委）に携帯電話用無線基地局建設予定地の埋蔵文化財の状況について照会があった。市教委は、該当地周辺には県営宿大類ほ場整備事業に伴い調査された天田・川押遺跡が所在し、古代～中近世に至る散布地として遺跡台帳・地図に登録された埋蔵文化財包蔵地であるため、工事と埋蔵文化財保護との調整が必要な旨を回答した。

同年12月3日付けで事業者より試掘調査申込書が提出されたのを受けて、市教委は同年12月15日に工事予定地の試掘調査を実施し、中世の溝・堀遺構を確認した。

試掘結果を受けて、埋蔵文化財保護について事業者と協議を行ったが、建設予定の変更は不可能ということなので、文化財保護法第93条第1項の規定による届出に対する回答で、記録保存の発掘調査が必要であると指示を出した。

発掘調査は、市教委の作成する調査仕様書に基づく指導・監理の下、有限会社高澤考古学研究所に委託して実施することとなり、平成21年4月16日付けで高崎市長・事業者・高澤考古学研究所の三者協定を締結し、さらに協定に基づき平成21年4月17日付けで事業者と高澤考古学研究所の二者で発掘調査委託契約が締結された。

# II 調査の方法と経過

## 1. 調査の方法

調査対象面積は鉄塔建設により埋蔵文化財の保存が必要となる49㎡が対象となる。高崎市教育委員会が行った試掘調査の結果、溝等の遺構の存在が明らかになった。遺構の確認面は、表土下約50cmのFA泥流面で確認することができる。

表土除去作業は、重機を使用し、残土は調査区脇に排土置場を設定した。座標は、世界測地系第IX系を使用した。遺構確認は、ジョレン等で行い、遺構の掘り下げは移植ゴテを基本とし、適時必要に応じて鋤鎌・スコップを使用した。調査は、遺構毎に土層の観察を行うため、ベルトを設定して掘り下げ作業を行った。遺構は掘り込み面または、確認面を把握する為、調査区壁で土層の観察を行った。遺構平面図は、器械測量で行った。底面や下層から出土した遺物は、器械測量で位置を計測しNo.を付して取り上げた。覆土中の遺物は遺構毎に一括で取り上げた。写真撮影は35mmカラーリバーサルフィルム、同モノクロフィルム、デジタルカメラの3種類を使用した。

## 2. 調査の経過（平成21年4月20日～4月24日）

平成21年4月20日 発掘調査を開始する。プレハブ・トイレ・発掘器材・資材等の搬入。安全対策作業。

重機搬入、表土除去を行う。堀1条・溝1条、土坑2基を確認する。

4月21日 堀・溝・土坑の掘り下げ作業。写真撮影。

4月22日 堀・溝・土坑の掘り下げ作業。写真撮影。

4月23日 測量作業を行う（各遺構の平面図・断面図）。基本堆積土層の調査を行う。

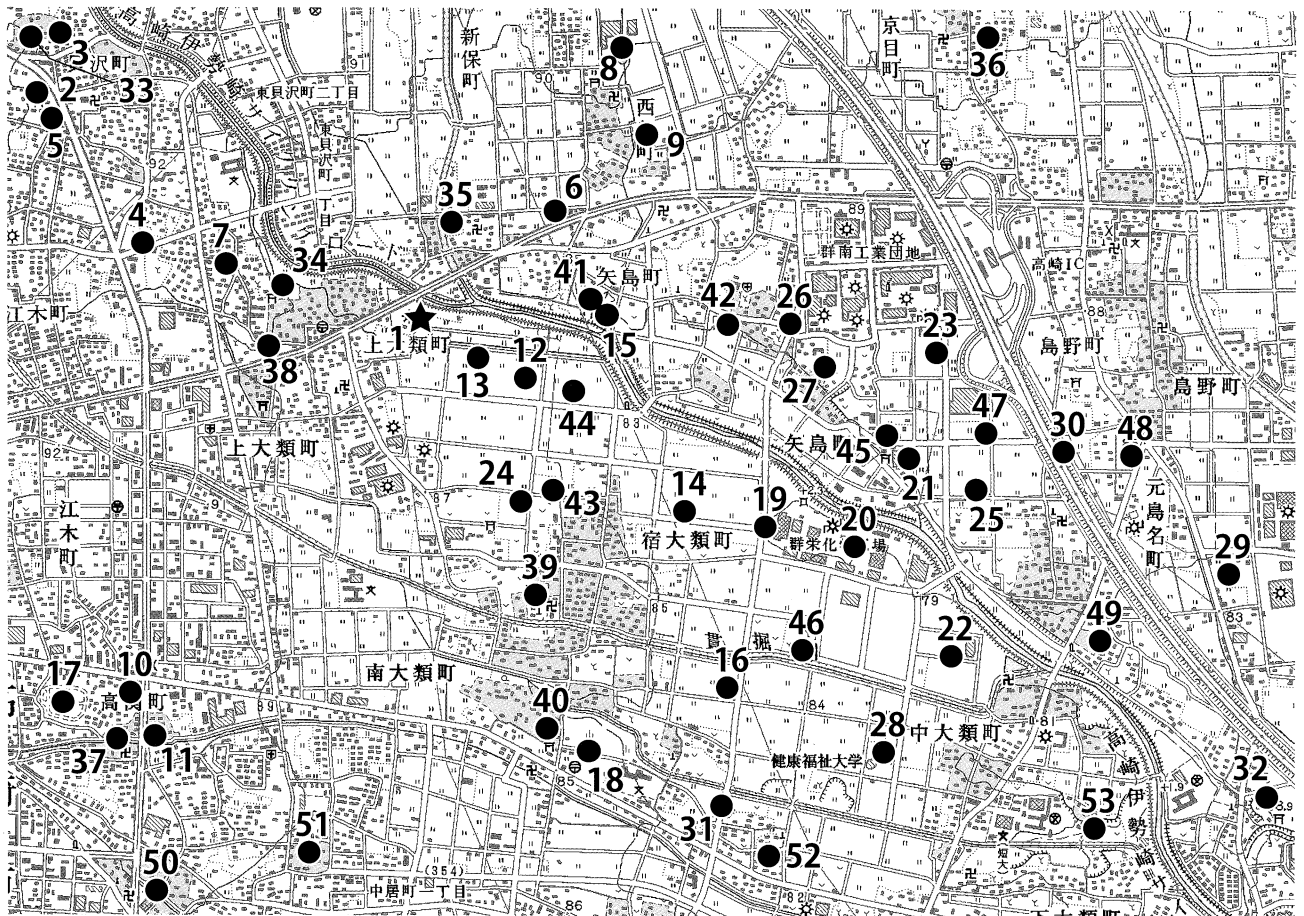
4月24日 遺構確認面以下の堆積状況の確認の為、重機にてトレンチ掘りを行う。

プレハブ・トイレ・発掘器材・資材等の撤収作業。重機で埋め戻し作業後搬出。

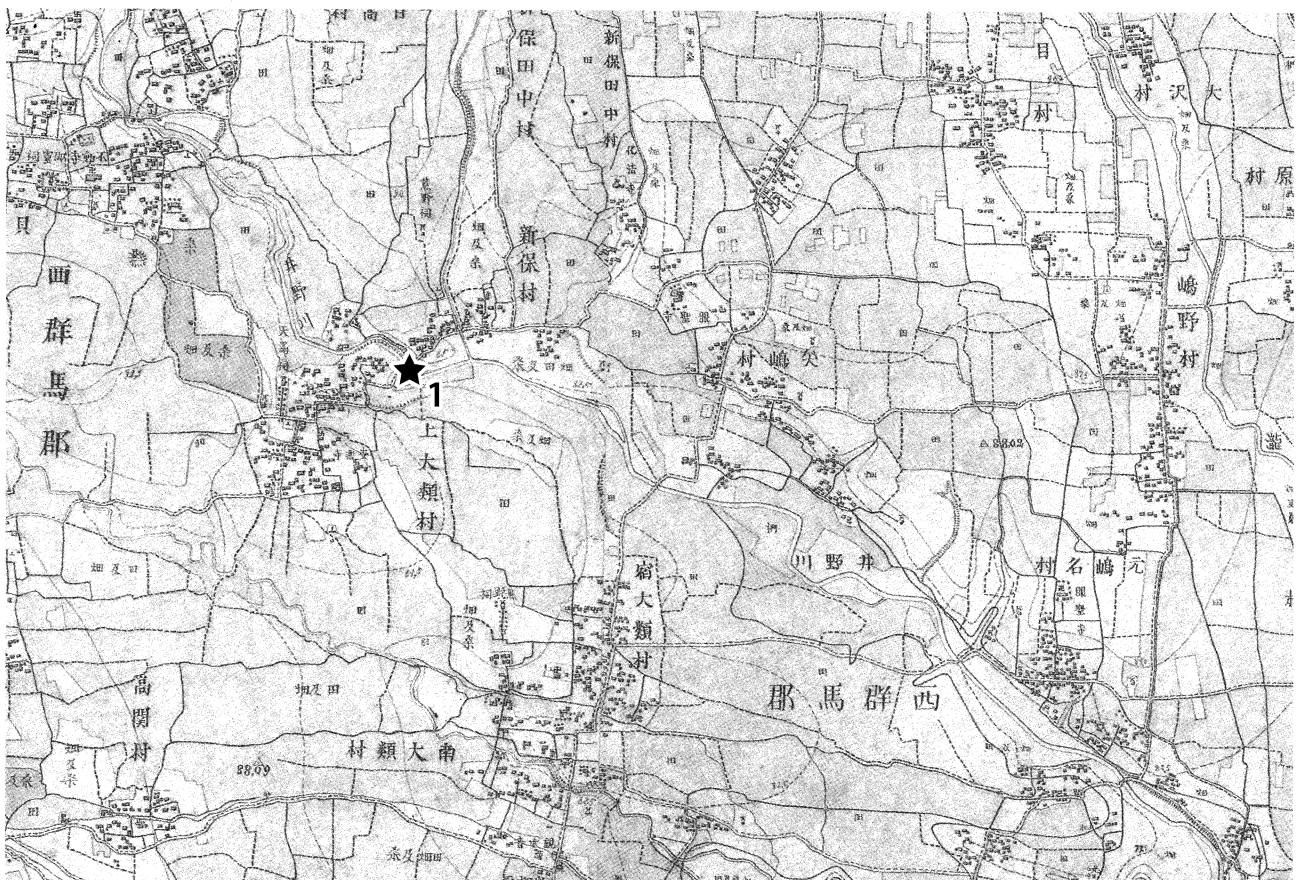
発掘作業を終了する。



### Ⅲ 遺跡の立地と環境



第1図 遺跡の位置と周辺遺跡図 (国土地理院発行 1/25,000 を使用)



第2図 遺跡の位置図

(日本地図センター発行 明治前期測量 2万分1 フランス式彩色地図を80%縮小し使用)



第1表 周辺遺跡一覧表

No.	遺跡名	時代	検出された遺構	報告書及び文献
1	上大類・川押遺跡2	本遺跡	本書	本書所収遺跡
2	五霊神社	古墳	前方後円墳	1972『県台帳』
3	貝沢Ⅰ遺跡	古墳	祭祀遺構、石製品	1994『貝沢Ⅰ遺跡』高崎市教育委員会第131集
4	貝沢柳町遺跡	古墳、奈良・平安、近世	周溝墓、埴輪棺、平安住居、集石遺構	1986『貝沢柳町遺跡』高崎市教育委員会第74集
5	井野前土師遺跡	古墳		1972 群馬県遺跡台帳
6	新保八坂遺跡	平安	B軽石下水田、古代道路	1988『新保八坂遺跡』高崎市教育委員会第158集
7	上大類薬師遺跡	古墳、奈良・平安	古墳～平安住居、石模、勾玉	1985『上大類薬師遺跡』高崎市遺跡調査会第8集
8	西島相ノ沢遺跡	弥生、古墳	弥生環濠集落、古墳住居、祭祀土坑	1990『西島相ノ沢遺跡』高崎市教育委員会第102集
9	西島遺跡群Ⅳ	縄文、古墳、奈良・平安	方形周溝墓、平安住居、掘立柱建物、古代小鍛冶遺構	1987『西島遺跡群Ⅳ』高崎市教育委員会第76集
10	高関東沖・村前遺跡	弥生～中・近世	弥生住居、中世遺構、石模、中世フイゴ羽口	1995『高関東沖・村前遺跡』高崎市教育委員会第135集
11	高関堰村遺跡	弥生、中・近世	弥生環濠、中・近世遺構、高関屋敷	1995『高関堰村遺跡』高崎市教育委員会第116集
12	天田Ⅱ遺跡	奈良・平安、中世	奈良・平安住居、B軽石下水田、中世館跡、五輪塔、板碑、天田館	1984『天田Ⅱ遺跡』高崎市教育委員会第48集
13	天田・川押遺跡	縄文～中・近世	縄文中期・奈良・平安住居、B軽石下水田、八鏡鏡、石帯	1983『天田・川押Ⅱ遺跡』高崎市教育委員会第41集
14	山鳥・天神遺跡	縄文、奈良・平安	縄文前期、奈良・平安住居、掘立柱建物、B軽石下水田、紡錘車、銅製品	1984『山鳥・天神遺跡』高崎市教育委員会第56集
15	矢島村西・増殿遺跡	縄文～中世	縄文中・後期、古墳、奈良・平安住居、城館、板碑、矢島西城	1986『矢島村西・増殿遺跡』高崎市教育委員会第71集
16	南大類東沖・稲荷遺跡	縄文・弥生、古墳、平安	方形周溝墓、掘立柱建物、古墳・奈良・平安住居、B軽石下水田	1997『南大類東沖・稲荷遺跡』高崎市教育委員会第148集
17	高関高根遺跡	古墳～平安、中・近世	古墳～平安住居、堅穴状遺構・井戸・水田・中近世溝・井戸	2009『高関高根遺跡』高崎市教育委員会第244集
18	南大類村南遺跡	平安・中世・近世	住居、中世堀跡、五輪塔	1994『南大類村南遺跡』高崎市教育委員会第131集
19	天神久保遺跡	縄文、平安	縄文前期、平安住居、B軽石下水田、土製玉	1985『天神久保遺跡』高崎市教育委員会第64集
20	万相寺遺跡	縄文～中世	縄文中・後期・弥生後期・古墳前期住居・中世遺構、B軽石下水田	1985『万相寺遺跡』高崎市教育委員会第66集
21	鈴ノ宮遺跡	縄文・弥生、古墳、奈良・平安、中世	縄文中・後期・弥生後期・古墳前期・平安住居、弥生中期後半土器、前方後方形周溝墓、胴部穿孔土器、文字瓦、鉄剣、鈴ノ宮館	1978『鈴ノ宮遺跡』高崎市教育委員会第4集
22	情報団地遺跡	縄文～中世	方形周溝墓、弥生住居、帆立貝式古墳、古墳住居、奈良・平安住居、古道、B軽石下水田、中世館跡	1997『高崎情報団地遺跡』高崎市遺跡調査会第55集
23	元島名瓦井遺跡	縄文、古墳、平安、中・近世	水田、縄文章創期の尖頭器	1995『元島名瓦井遺跡』高崎市遺跡調査会第39集
24	宿大類町村西遺跡	縄文～中世	縄文前期・弥生後期・古墳前期・平安住居、方形周溝墓、古銭、墨書、石碑、五輪塔、中世フイゴ羽口、大類城	1987『宿大類町村西遺跡』高崎市教育委員会第75集
25	元島名遺跡	縄文～古墳、中世	縄文中・後期住居、円形周溝墓、方形周溝墓、壺棺、中世館跡、底部穿孔土器、板碑、古銭、元島名城、元島名環濠遺構	1979『元島名遺跡』高崎市教育委員会第6集
26	矢島竹之内遺跡	弥生、平安	方形周溝墓、壺棺墓、弥生後期住居、弥生中期後半土器片、平安土坑	1988『矢島竹之内遺跡』高崎市遺跡調査会第86集
27	矢島町薬師遺跡	弥生～古墳、平安、中世	弥生住居、古墳住居、溝、土坑	1994『矢島町薬師遺跡』高崎市遺跡調査会第27集
28	中大類沖田遺跡	平安、中・近世	水田、土坑、溝状遺構	2000『中大類沖田遺跡』高崎市遺跡調査会第81集
29	島野中町遺跡	古墳、平安、中世	F A下水田、B軽石下水田、中世畠	1992『島野中町遺跡』高崎市教育委員会第120集
30	元島名B遺跡	縄文、奈良・平安、中世	溝、掘立柱建物、五輪塔、板碑	1982『元島名B遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団第4集
31	諏訪山古墳	古墳	円墳	1972『県台帳』
32	将軍塚古墳	古墳	前方後方墳	1972『県台帳』

No.	遺跡名	報告書及び文献	No.	遺跡名	報告書及び文献
33	貝沢東新井屋敷	1996 新編「高崎市史」資料編3・中世Ⅰ	45	鈴ノ宮屋敷	1978『鈴ノ宮屋敷』高崎市教育委員会第4集
34	上大類新井屋敷	1996 新編「高崎市史」資料編3・中世Ⅰ	46	塚ノ越屋敷	1996 新編「高崎市史」資料編3・中世Ⅰ
35	下新保環濠遺跡	1996 新編「高崎市史」資料編3・中世Ⅰ	47	元島名城・元島名環濠遺構	1979『元島名遺跡』高崎市教育委員会第6集 1982『元島名B遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団第4集
36	上京目深沢屋敷	1996 新編「高崎市史」資料編3・中世Ⅰ	48	島野環濠遺構群	1996 新編「高崎市史」資料編3・中世Ⅰ
37	高関屋敷	1996 新編「高崎市史」資料編3・中世Ⅰ	49	元島名内出	1996 新編「高崎市史」資料編3・中世Ⅰ
38	長井屋敷	1996 新編「高崎市史」資料編3・中世Ⅰ	50	反町城	1989『上中居辻薬師遺跡』高崎市教育委員会第101集 1992『上中居辻薬師Ⅱ遺跡』高崎市教育委員会第122集
39	大類城	1987『宿大類町村西遺跡』高崎市教育委員会第75集	51	丸茂屋敷	1996 新編「高崎市史」資料編3・中世Ⅰ
40	大類館	1996 新編「高崎市史」資料編3・中世Ⅰ	52	隼人屋敷	1996 新編「高崎市史」資料編3・中世Ⅰ、県台帳
41	矢島西城	1986『矢島村西・増殿遺跡』高崎市教育委員会第71集	53	降照屋敷	1996 新編「高崎市史」資料編3・中世Ⅰ、県台帳
42	矢島反町屋敷	1996 新編「高崎市史」資料編3・中世Ⅰ			
43	正応の板碑	市指定遺跡			
44	村北館跡	1985『村北・矢島前・村東遺跡』高崎市教育委員会第61集			

## 1. 地理的環境

本遺跡は、高崎市役所から東に約3kmの井野川と染谷川が合流する付近に位置する。地形を見ると、高崎市域の東方を東南流する井野川右岸の低地に位置する。この低地は井野川低地帯と呼ばれ、長さ約10km、幅は1～1.5km程で、帯状に延びている。周辺の地形は、西方には、高崎台地と呼称される台地が、北・東方は、井野川左岸以東に広がる前橋台地が、南方には烏川が流れる。高崎台地との比高差は、烏川との合流地点～柴崎町、矢島町あたりの下流域では、明確な段丘面（急崖）により区分できるが、本遺跡が立地する上流域では、比高差が殆どなく高崎台地と井野川低地帯の境目は不明瞭になる。井野川低地帯は、元々旧利根川の流路で、21,000年前に堆積した前橋泥流を基盤層に形成されている。旧利根川の流路部分は砂礫層が厚く堆積し、その後、11,000年前に堆積した高崎泥流等の堆積物により、現在の井野川低地帯が形成されている。本遺跡は標高約85mあり、周辺は、微高地と低地が入り組んだ地形をなしている。現在は、微高地では集落や畑が、低地では広大な水田が広がっている。

## 2. 歴史的環境

本遺跡の周辺では、旧石器の遺跡は確認されていないが、縄文時代から中世にかけての遺跡は、各所で確認することができる。

縄文時代を見ると、井野川流域一帯では草創期～晩期までの遺跡が確認されている。草創期は、現在のところ元島名瓦井遺跡(23)で尖頭器が出土しているのみで、遺構は確認されていない。人々の生活の痕跡が顕著に確認できるようになるのは前期からで、以降後期にかけて遺跡数が増加する。集落は、前期は天神久保遺跡(19)、宿大類町村西遺跡(24)で、中期は、天田・川押遺跡(13)、山鳥・天神遺跡(14)、万相寺遺跡(20)、鈴ノ宮遺跡(21)、元島名遺跡(25)で確認されている。さらに矢島村西・増殿遺跡(15)、万相寺遺跡(20)、鈴ノ宮遺跡(21)、元島名遺跡(25)では中期に引き続き後期の集落も確認されている。その他、情報団地遺跡(22)では、遺構は確認されていないが前期～晩期にかけての土器片や石器が、南大類東沖・稲荷遺跡(16)では諸磯b式の甕が出土している。

弥生時代は、本遺跡の南西約4kmに、中期後半の土器群の標準遺跡（竜見町式土器）である竜見町遺跡が存在する。本遺跡周辺の矢島竹之内遺跡(26)、鈴ノ宮遺跡(21)でも中期後半の土器片が確認されているが、遺構は現在のところ確認されていない。後期になると西島相ノ沢遺跡(8)、高関堰村遺跡(11)で環濠集落が、高関東沖・村前遺跡(10)、万相寺遺跡(20)、鈴ノ宮遺跡(21)、情報団地遺跡(22)、宿大類町村西遺跡(24)、矢島町薬師遺跡(27)で集落が確認されるようになり、それに伴い南大類東沖・稲荷遺跡(16)、情報団地遺跡(22)、矢島竹之内遺跡(26)で方形周溝墓が確認されている。

古墳時代に入ると遺跡数がさらに増加し、大類地区を中心とした井野川流域では、前期の石田川式土器と畿内系土器が広い範囲で出土している。集落も確認数が増加し上大類薬師遺跡(7)、南大類稲荷遺跡(17)、万相寺遺跡(20)、鈴ノ宮遺跡(21)、情報団地遺跡(22)、宿大類町村西遺跡(24)、矢島町薬師遺跡(27)等で確認されている。また、情報団地遺跡(22)の掘立柱建物跡からは炭化米が出土しており、灌漑用水とされる溝も確認されていることから周辺に水田が広がっていた様子が窺える。周溝墓は弥生後期から引き続き各所で確認されており、貝沢柳町遺跡(4)、西島遺跡群IV(9)、情報団地遺跡(22)、宿大類町村西遺跡(24)で方形周溝墓や円形周溝墓が確認されている。また、鈴ノ宮遺跡(21)、では検出例の少ない前方後方型周溝墓が確認されている。水田は、後期に入ると井野川左岸の前橋台地上の島野中道遺跡(29)でF A下水田が確認できる。さらに、本遺跡約3kmの萩原団地遺跡では、後期の水田が広い範囲にわたって確認されていることから、集落の拡大に伴い水田耕作が盛んに行われていた様子が窺える。古墳は、本市で最も古いとされている前方後方墳の元島名將軍塚古墳(32)を初め、井野川流域の微高地上を中心に数多く築造されている。情報団地遺跡(22)では、5世紀後半～6世紀初頭に築造された帆立貝式古墳、円墳を主体に7世紀代までの古墳が確認されている。その他、周辺には前方後円墳の五霊神社、円墳の諏訪山古墳(31)が存在する。

奈良・平安時代は、古墳時代よりもさらに集落域が拡大し、それに伴い数多くの水田遺構が確認されるようになる。分布状況は井野川流域の微高地上に集落が、低地部に水田が耕作されているようになり、同一遺跡内から集落遺構と水田遺構がセットで確認される調査事例が数多く見られるようになる。また、新保八坂遺跡(6)、情報団地遺跡(22)では古代の道路跡が確認されており、前代の古墳時代とは社会環境に大きな変化が見られる。本遺跡からは製鉄炉の炉壁片が1点出土している。本遺跡周辺は基より高崎市域からは現在の所製鉄炉は確認されていないが、西島遺跡群IV(9)からは製鉄炉と関係のある小鍛冶遺構が1軒確認されていることから、製鉄路遺構の存在が指摘される。

中世は、本遺跡が立地する井野川流域は、大類氏や島名氏の本貫地とされており(1996新編『高崎市史』資料編3・中世I)、微高地上には中世城館が数多く存在する。本遺跡周辺にも、発掘調査により確認された城館や文献資料等



で以前から周知されている城館の存在が知られている。本遺跡の東方約 200m に位置する天田Ⅱ遺跡（12）からは、発掘調査の結果、東西 52m、南北約 60m と推定される方形館が確認されている。堀は東西で規模が極端に異なり、南堀の一部は南西方に分岐しており、灌漑用水を兼ねていた可能性が指摘されている。館内には掘立柱建物跡 2 軒、竪穴状遺構が 2 軒、井戸が 5 基検出されている。館外の南東部には土坑墓が 16 基集中して確認されており、墓域が形成されている。本遺跡の南東約 100m の天田・川押遺跡（13）からは、土坑墓が 5 基確認されており、覆土中から北宋銭が出土している。この遺跡は、本遺跡と天田Ⅱ遺跡との中間地点に位置し、本遺跡との関連性が指摘される。本遺跡の東方約 500m に位置する村北屋敷（44）は、発掘調査により東西 30m、南北 35m の単郭構造の小居館と考えられている。館内には掘立柱建物跡 7 軒、柵列 2 基、井戸 6 基等が確認されている。館外の東側には、掘立柱建物跡 9 軒、井戸 2 基、土坑墓が 4 基確認されており、館内と類似した環境が広がっている。館内外の掘立柱建物跡や付随する井戸等の施設は、新旧関係や配置関係などから時期差があり、継続して使用されていた痕跡が認められている。南西方約 1.7km の塚ノ越屋敷（46）は、発掘調査の結果、単郭の方形館と考えられている。館内から掘立柱建物跡は確認されていないが、井戸と思わる土坑が確認されている。堀の覆土中からは、館の廃棄遺物である板碑（1333 年：元弘 3 年）が出土し、館の時期が推測できる。その他、本遺跡の周辺には、南方約 700m に大類城、南方約 1.2km に大類氏の居館とされている大類館、南方約 2.0km には反町城が存在する。さらに東方約 600m には矢島西城が、西方約 1.9km には元島名城（47）が存在する。

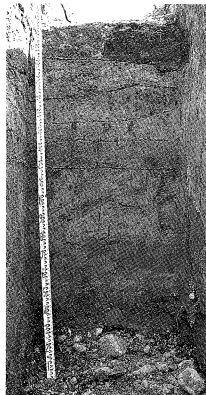
第 2 表 周辺の中世城館詳細表（1996 新編「高崎市史」資料編 3・中世 I より抜粋）

遺跡番号	遺跡名	構造（形式）	占地	時代	規模（m） 東西×南北	築造者	残存部分	備考
12	天田Ⅱ遺跡（天田館）	単郭	平地、北は天田堰	室町	52×60	—	なし	土塁なし。水堀、灌漑用水か。
33	貝沢東新井屋敷	複郭	北面は小屋	戦国	210×150	新井雅楽之助	土塁・堀	和田城の外壁か。
34	上大類新井屋敷	複郭か、環濠屋敷	井野川右岸の崖	16 世紀	不明×200	新井氏（新井刑部）	土塁・堀	堀外側に土塁状の盛土痕跡あり。
35	下新保環濠遺跡	環濠屋敷	染谷川と井野川の合流点	戦国	—	小嶋氏・反町氏等	—	有力農民の居館。
36	上京目深沢屋敷	環濠屋敷（複郭）	平地	戦国	250×240	深沢氏	堀	
37	高関屋敷	複郭（囲郭）	平地、南面は地獄堰	戦国	170×110	角田氏	濠	
38	長井屋敷	環濠屋敷	平地、北は新井屋敷	16 世紀	85×75	長井氏	なし	上大類環濠遺構の南端部の館。
39	大類城	複郭（囲郭）	一貫堀川が南面濠	戦国	400×400	和田氏	土塁・濠	和田城の外壁か。
40	大類館	囲郭	平地、北は一貫堀川	15 世紀	200×150	大類氏	堀	大類氏の居館。
41	矢島西城	複郭（並郭）	井野川の微高地	室町	150×130	足利氏か	なし	
42	矢島反町屋敷	複郭	台地南端部	戦国（天正年間）	150×100	反町氏	堀	
43	正応の板碑	—	—	正応 5 年（1292 年）	—	—	—	緑泥片岩
44	村北屋敷	単郭か	平地	室町	30×35	—	なし	複郭構造の可能性あり。
45	鈴ノ宮屋敷	単郭	井野川左岸崖端	—	50×63	不明	なし	武士層の屋敷。板碑出土。
46	塚ノ越屋敷	単郭（方形館か）	平地、井野川近い	14 世紀か	—	—	なし	堀から板碑（1333 年）出土。
47	元島名城 （元島名環濠遺構）	複郭（囲郭）	井野川北岸	戦国	500×480	永井（長井） 豊前守政実	なし	城より古い様相を示す方形郭の桜屋敷あり。
48	島野環濠遺跡	環濠屋敷	平地	16 世紀	210×210	阿久沢氏か	堀	
49	元島名内出	複郭	井野川左岸崖端	16 世紀	160×140	阿久沢氏か	堀・土塁	元島名城の出城。
50	反町城	複郭（並郭）	平地、北は長野堰	戦国	215×120	反町氏	水堀	堀底に障子堀。中世～近世まで存続。
51	丸茂屋敷	複郭（二重濠）	平地	室町	130×110	丸茂氏	水堀	
52	隼人屋敷	複郭（囲郭）	平地	16 世紀（天文年間）	90×110	原隼人氏	なし	回字型か。北東隅欠け、鬼門除けか。
53	降照屋敷	複郭・崖端	一貫堀川支流左岸の河崖	室町	130×50	高井氏	土塁・堀	

## IV 基本堆積土層

本遺跡は、井野川右岸から南に約 20m 離れた低地帯に位置する。現在、周辺は一面水田化され、約 300m 西方には集落が広がる。本遺跡の基本堆積土層は I～XI 層に分層できる。I・II 層は近・現代の開発等により攪拌されていた層位で、主に水田や畑地に利用され、調査区の全域に堆積する。遺物は、現代から古代までの土器片が少量混入する。IV 層は旧河川跡である。V・VI 層は、FA 泥流層で、それぞれ中世段階の遺構確認面になる。間層を挟み現地表面下約 1m には約 11,000 年前に堆積した高崎泥流層（X 層）を確認することができる。層厚は約 1.6m を測る。X 層下には 1.3 万年前に降下した YP 軽石（浅間板鼻黄色軽石）の堆積は認められなかった。XI 層は礫層で現地表面下、約 2.6m で確認した。旧利根川の河床面と思われる。

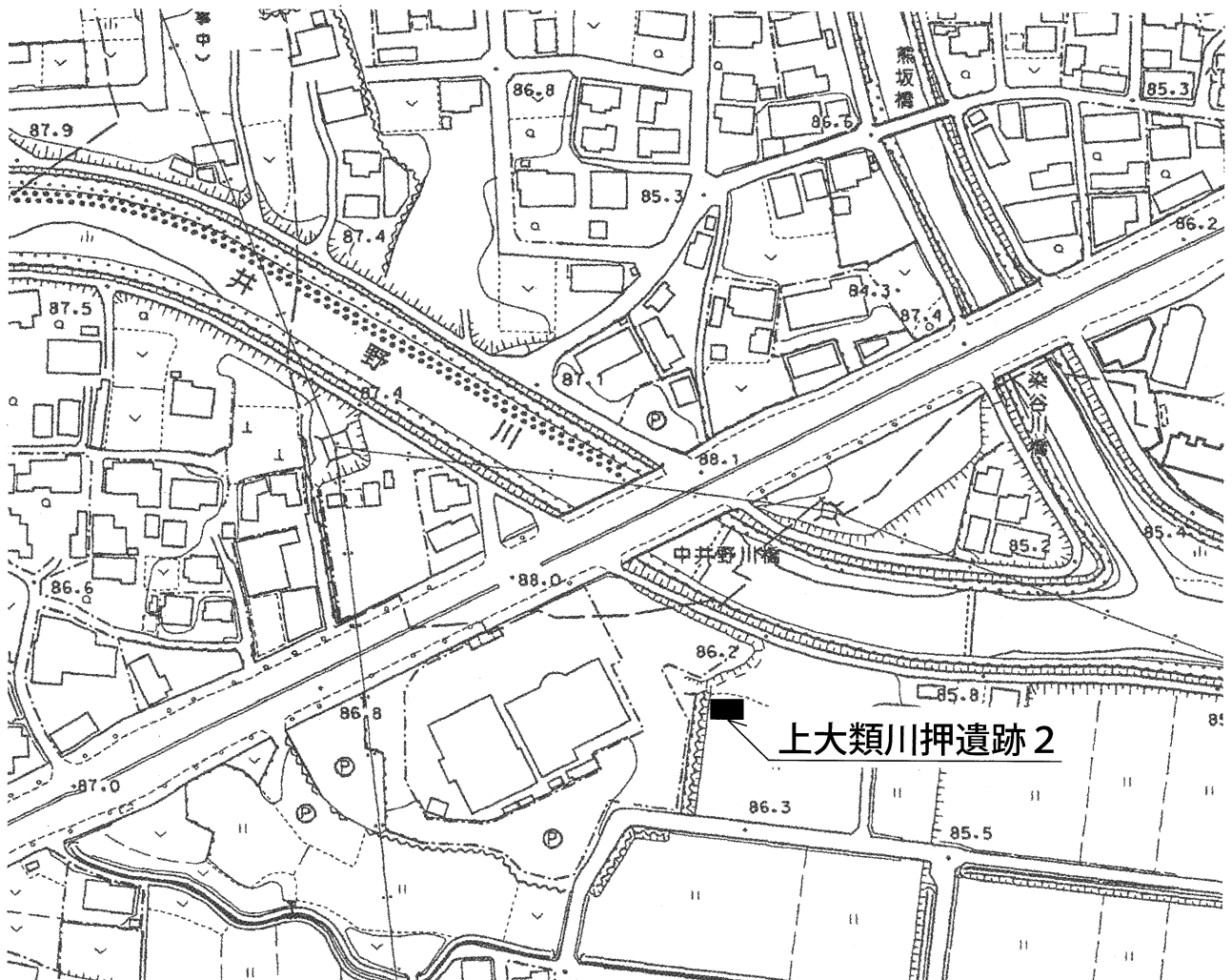
I
II
III
IV
V FA 泥流
VI FA 泥流層
VII
VIII
IX
X 高崎泥流層
XI 旧利根川



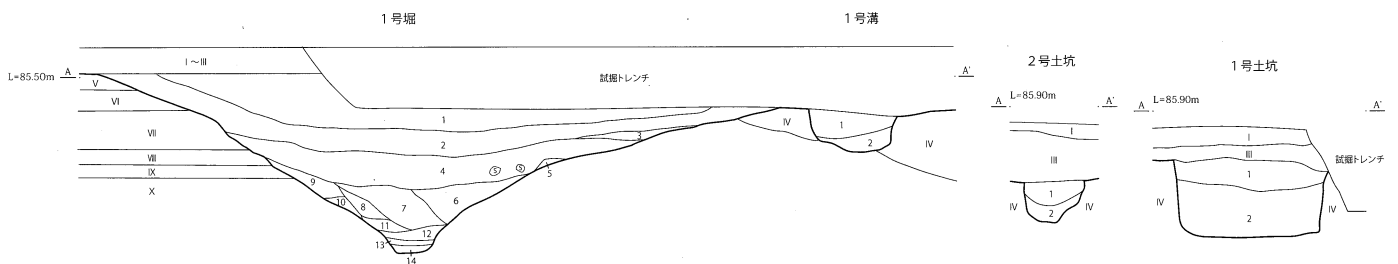
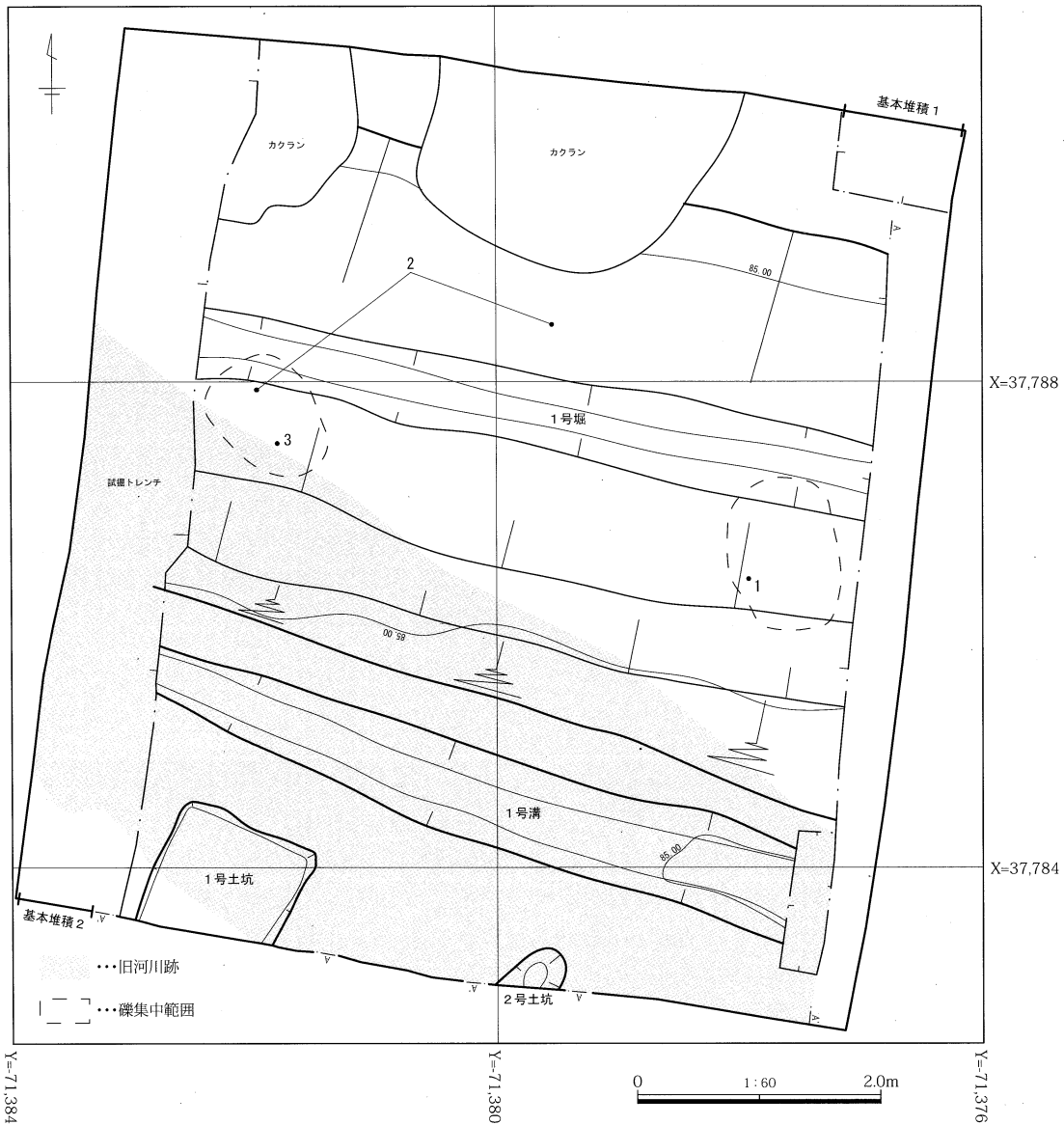
基本堆積土層 2

- I 層. 耕作土。
- II 層. 旧耕作土。
- III 層. 褐色土。
- IV 層. にぶい黄褐色シルト  
しまり やや強。粘性 普通。浅間 A・B 軽石を少量含む。しまり、粘性ともにやや強。旧河川跡。調査区中央～南側に堆積する。現地表面下約 20cm～40cm で確認できる。腐食層とラミナ状堆積が基本的に交互に堆積する。F P 軽石を少量含む。覆土中から 7 世紀代の土師器片が微量出土する。F A 泥流の堆積が確認できないことから F A 泥流後に形成されたものと思われる。調査区中央～南側の遺構確認面である。
- V 層. 暗褐色土  
しまり、粘性ともに普通。F A 泥流層。泥流層の上層が湿地化し黒色化したものと思われる。現地表面下約 20～30cm で確認できる。調査区の全域に堆積していたものと思われるが、IV 層の旧河川跡の形成段階で削平されたものと思われる調査区南側では確認できない。遺物は出土しなかった。遺構確認面である。
- VI 層. にぶい黄褐色シルト  
しまり、粘性ともにやや強。F A 泥流層。堆積の状況は V 層と同様である。遺物は出土しなかった。
- VII 層. にぶい黄褐色シルト  
しまり やや強。粘性 普通。浅間 C 軽石を少量含む。遺物は出土しなかった。
- VIII 層. 暗褐色シルト  
しまり、粘性ともにやや強。遺物は出土しなかった。
- IX 層. 黄褐色シルト  
しまり、粘性ともに強。遺物は出土しなかった。
- X 層. 黄灰色シルト  
しまり、粘性ともに強。高崎泥流層。遺物は出土しなかった。
- XI 層. 礫層  
現表土から約 2.6m 下で確認することができる。径 5～20cm の川原石が厚く堆積する。旧利根川の河床面と考えられる。

第 3 図 柱状図



第 4 図 調査区位置図 1/2,500



1号堀

- |            |   |
|------------|---|
| 1. 黒褐色土    | しまり、粘性 普通。黄褐色粒子を微量含む。   |
| 2. 黒褐色土    | しまり、粘性 普通。黄褐色粒子・ブロックを斑に少量含む。旧河川跡のF P軽石を微量含む。                            |
| 3. 暗褐色土    | しまり、粘性 普通。黄褐色粒子・ブロックを斑に微量含む。  |
| 4. 暗褐色土    | しまり、粘性 普通。黄褐色粒子・ブロックを斑に少量含む。  |
| 5. にぶい黄褐色土 | しまり 強、粘性 やや強。黄褐色ブロックをやや多量に含む。   |
| 6. 黄褐色土    | しまり やや強、粘性 普通。黄褐色ブロックをやや多量に含む。上層で拳大～頭大の川原石を多く含む。本堀に伴う遺物を比較的多く含む。        |
| 7. 暗褐色土    | しまり やや強、粘性 普通。黄褐色粒子・ブロックを斑に少量含む。6層同様、上層で拳大～頭大の川原石を多く含む。本堀に伴う遺物を比較的多く含む。 |
| 8. 黒褐色土    | しまり やや強、粘性 普通。黄褐色土を少量含む。旧河川跡のF P軽石を微量含む。                                |
| 9. 黒褐色土    | しまり やや強、粘性 普通。黄褐色土を少量含む。  |
| 10. 黒褐色土   | しまり やや強、粘性 普通。黄褐色土を少量含む。旧河川跡のF P軽石を微量含む。                                |
| 11. 黒褐色土   | しまり、粘性 普通。黄褐色土を微量含む。  |
| 12. 暗灰色シルト | しまり、粘性 やや強。腐食層。旧河川跡のF P軽石を微量含む。   |
| 13. 橙色土    | しまり 強、粘性 普通。鉄分沈着。12層の腐食土を斑に含む。  |
| 14. 暗灰色シルト | しまり、粘性 強。腐食層。旧河川跡のF P軽石を少量含む。黄灰色シルトブロック(高崎泥流)を微量含む。12層よりも腐食化が進んでいる。     |

1号溝

- |         |                                       |
|---------|---------------------------------------|
| 1. 黒褐色土 | しまり やや強、粘性 普通。旧河川跡のF P軽石、黄褐色粒子を微量含む。  |
| 2. 黒褐色土 | しまり、粘性 やや強。旧河川跡の覆土である黄白色シルトブロックを少量含む。 |

1号土坑

- |         |                                |
|---------|--------------------------------|
| 1. 黒褐色土 | しまり やや強、粘性 普通。黄褐色粒子・ブロックを微量含む。 |
| 2. 黒褐色土 | しまり やや強、粘性 普通。黄褐色粒子・ブロックを少量含む。 |

2号土坑

- |         |   |
|---------|---|
| 1. 黒褐色土 | しまり、粘性ともに普通。旧河川跡のF P軽石を微量含む。旧河川跡の覆土である砂質土を少量含む。                   |
| 2. 黒褐色土 | しまり、粘性ともに普通。旧河川跡のF P軽石を微量含む。旧河川跡の覆土である砂質土を少量含む。黒色粘質土ブロックを斑状に微量含む。 |

第4図 遺構平・断面図 (1/60)



## V 検出された遺構と遺物

### 1. 堀

**1号堀**（遺構：図面第4図、PL. 2 遺物：観察表第3表、図面第6図、PL. 4）

**位置** 調査区の中央部をほぼ東西に走る。南隣には1号溝がほぼ並走する。**規模** 検出長7.10m、幅4.60m、深さ1.15cmである。**断面形態** 葉研状。傾斜角度は、北側に比べ南側は比較的緩やかに立上る。**主軸方向** N 72°Wで、ほぼ直線的に延びる。**覆土** 14層に分層できる。1～5層（上層）はレンズ状堆積の自然埋没土である。6層～10層（中層）は北方から流入したと思われる斜位の堆積である。人為的な埋め戻し土の可能性が高い。11～14層（下層）は水平堆積の自然埋没土と思われる。13層は鉄分を多量に含む。その上下層の12層・14層（最下層）は腐食層で、僅かであるが滞水の痕跡を示す。一時的（季節的）な現象の可能性が考えられる。空堀であった可能性が高い。水流の痕跡は認められなかった。**底面の状況** 全体的に多少の凹凸がみられるが、ほぼ平坦である。

**遺物** 土師器・埴輪・灰釉陶器・軟質陶器片等が少量出土している。1～5層（上層）は、外部からの流れ込みである円筒埴輪片（8）、灰釉陶器坏片（9）が各1点出土している。6層～10層（中層）から出土する遺物は、14～15世紀に限定され、軟質陶器片口鉢片（1）、鉢片（2・5・6）、軟質陶器内耳鍋（4・7）が出土している。東・西端部では、拳大～頭大の川原石が纏まって出土している。その他、古代製鉄炉の炉壁（3）が出土している。11～14層（下層）からは、遺物は出土しなかった。**重複関係** なし。F A泥流堆積後に形成された旧河川跡を掘り込んでいる。**時期** 覆土の特徴や出土した遺物の状況から15世紀前半には廃絶されたものと思われる。

### 2. 溝

**1号溝**（遺構：図面第4図、PL. 2・3 遺物：観察表第3表、図面第6図、PL. 4）

**位置** 調査区南側、1号堀の南隣に位置しほぼ並走する。**規模** 検出長7.10m、幅0.80m、深さ35cmである。**断面形態** 台形状。**主軸方向** N 72°W。**覆土** 2層に分層できる。ほぼ水平堆積の自然埋没土である。僅かに砂質土が含まれるが水流や腐食層の痕跡は認められない。**底面の状況** 1号堀と同様に全体的に多少の凹凸がみられるが、ほぼ平坦である。**遺物** 土師器・軟質陶器片が微量出土している。小破片で器種が特定できない遺物が殆どである。本遺構に伴う遺物ではないが土師器の羽釜片と思われる遺物（10）が1点出土している。**重複関係** なし。F A泥流堆積後に形成された旧河川跡を掘り込んでいる。**時期** 1号堀との配置関係、覆土の特徴、軟質陶器が出土していることから1号堀とほぼ同時期に廃絶された溝と思われる。

### 3. 土 坑

**1号土坑**（遺構：図面第4図、PL. 3）

**位置** 調査区南西端部位置する。**平面形態** 南側が調査区外の為、確定的ではないが長方形と思われる。**断面形態** 箱形。**規模** 長径1.15m以上、短径1.12m、深さ63cmである。**主軸（長軸）方向** N 24°E。**覆土** 2層に分層できる。水平堆積の自然堆積土である。**遺物** 軟質陶器片が微量出土している。**重複関係** なし。**時期** 覆土の特徴や出土した遺物から中世と思われる。

**2号土坑**（遺構：図面第4図、PL. 3）

**位置** 調査区南端部に位置する。**平面形態** 南側が調査区外の為、確定的ではないが長楕円形と思われる。**断面形態** U字状。**規模** 長径0.51m以上、短径0.37m、深さ33cmである。**主軸（長軸）方向** N 46°E。**覆土** 2層に分層できる。レンズ状堆積の自然埋没土である。**遺物** 軟質陶器片が微量出土している。**重複関係** なし。**時期** 覆土の特徴や、出土した遺物から中・近世と思われる。

### 4. 旧河川跡

**旧河川跡**（遺構：図面第4図、PL. 1 遺物：観察表第3表、図面第6図、PL. 4）

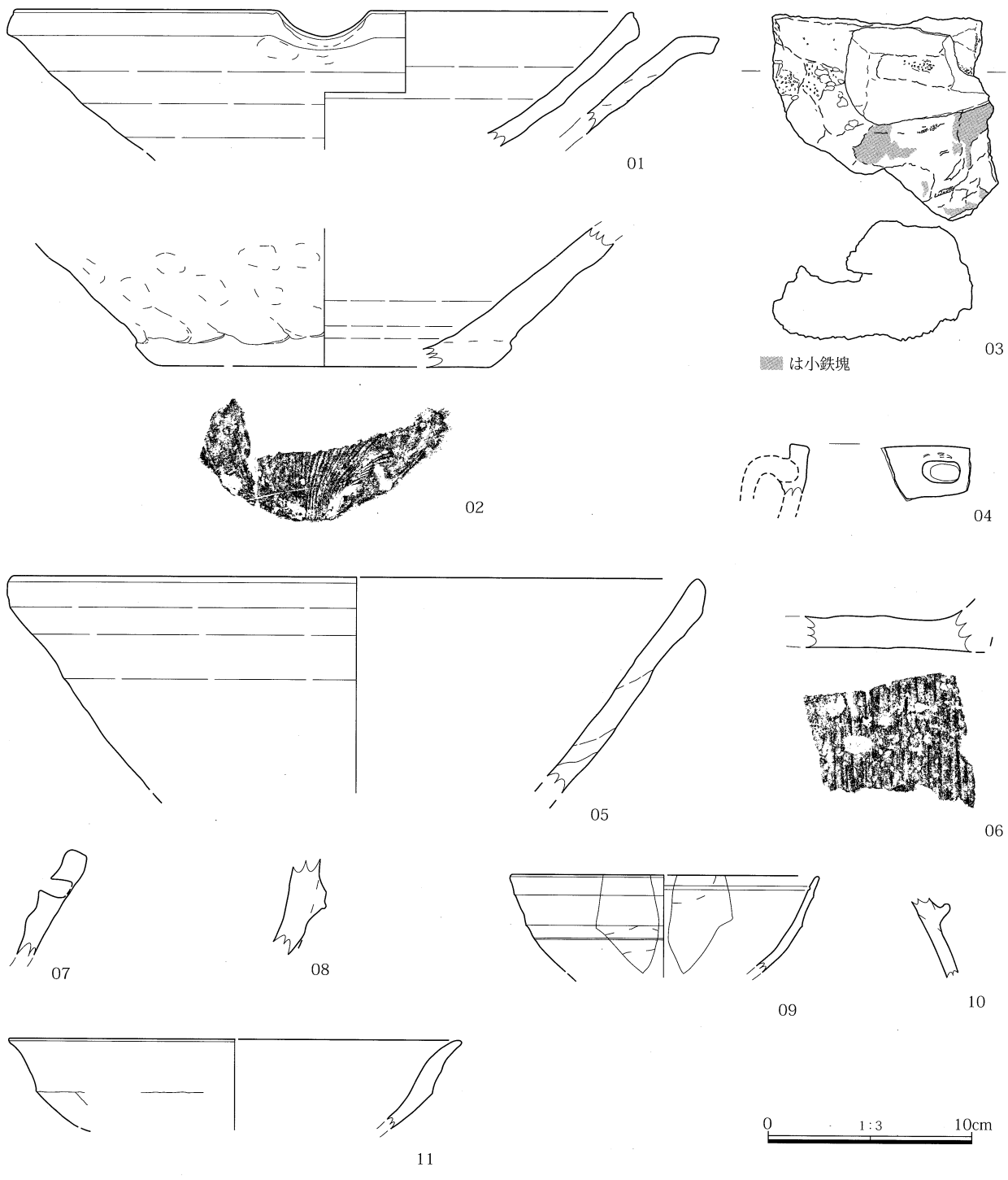
**位置** 調査区中央～南側に位置する。北側約20mに位置する井野川とほぼ並走しているため、旧井野川に関連した河川の可能性が考えられる。**規模** 確認面において検出長7.40m、幅3.40m、深さ77cmである。**断面形態** 不明。**主軸方向** N 56°Wである。**覆土** 確認した範囲で10層に分層できる。レンズ状又は水平堆積の自然埋没

土と思われる。中層～下層にかけては、間層を挟み腐食層とラミナ状の堆積が確認でき滞水、流水を繰り返している。覆土中にはFP軽石を少量含む。 **遺物**・7世紀代の土師器片が微量出土している。(11)は大型の土師器環である。**重複関係** 1号堀、1号溝より古い。FA泥流層より新しい。 **時期** 覆土の特徴や出土した遺物から古墳時代後期(7世紀代)には埋没していたものと思われる。

第3表 遺物観察表

胎土：細は細砂粒、極細は極細砂粒、白は白色粒、石は石英、雲は雲母である。

遺物番号	遺構名	種別	器種	出土層位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調整・文様等	色調	胎土	備考
1	1号堀	軟質陶器	片口鉢	中層	30.8	—	<6.8>	外面 ロクロ整形、片口部指押え。 内面 ロクロナデ、片口部円柱状工具で押し出し。体部なめらか。	黄灰色	細・白	口縁部～体部片。
2	1号堀	軟質陶器	鉢	中層	—	16	<6.8>	外面 ロクロ整形後指ナデ、体部最下部回転ナデ。 内面 ロクロナデ。体部なめらか。	灰色	細・白	底部左回転糸切り痕あり。底部～体部片。
3	1号堀	製鉄炉の炉壁		中層	幅11.0	厚さ3.5	<10>	外面 炉壁部分は胎土粗く、スサを多量に含む。 内面 上部を除き強く滓化し黒色ガラス化する。径1～2cmの小鉄塊が附着し、錆化する。	灰色	スサ含む	上部炉壁の一部は内面側に折曲る。折曲り部分厚さ5.8cm。
4	1号堀	軟質陶器	内耳鍋	中層	—	—	<2.6>	外面 ロクロ整形後ヨコナデ。 内面 耳部断面隅丸方形、耳部差込み痕あり。	オリーブ黒	細・白	燻し焼。口縁部片。
5	1号堀	軟質陶器	鉢	中層	34	—	<10.5>	外面 ロクロ整形。 内面 ロクロナデ、体部上部にハゼ。下部に磨滅。	にぶい黄橙色	細・白	口縁部～体部片。
6	1号堀	軟質陶器	鉢	中層	—	—	<2>	内面 底部に使用に伴う磨滅痕あり。	灰色	細・白	板目状圧痕あり。底部片。
7	1号堀	軟質陶器	内耳鍋	中層	—	—	<5.5>	外面 紐作り後、ロクロ整形。体部にすず附着。 内面 ロクロナデ。	にぶい黄橙色	細・白・雲	内耳指差込み痕。口縁部片。
8	1号堀	埴輪	円筒?	上層	—	—	<4.7>	外面 突帯は断面台形状、磨滅してハケ目は不明瞭。 内面 ヘラナデ。	にぶい橙色	細・白・石	破片。
9	1号堀	灰釉陶器	碗	上層	—	—	<4.7>	外面 ロクロ成形。 内面 ロクロナデ、口縁部に沈線あり。	灰白色	極細	施釉方法ハケ塗り。口縁部～体部片。
10	1号溝	土師器	羽釜?	上層	—	—	<4>	外面 ロクロ整形後、鏝貼付け。 内面 ロクロナデ。	外面は黒色	細・白	内面はにぶい黄橙色。破片
11	旧河川	土師器	環	上層	—	—	<4.3>	外面 口縁部はヨコナデ、体部はヘラケズリ。 内面 ヨコナデ。	橙色	極細・白	口縁部片。大型品である。



第6図 出土遺物図



## VI まとめ

### 古代製鉄炉の炉壁について

今回の調査で、1号堀の覆土中から古代製鉄炉の炉壁片が出土した。出土した炉壁片の特徴を見ると、外面は胎土が粗くスサ等の混和材を多量に入れ強度を増し、被熱を受けて固く締まっている。内面は、上部1/4は還元を受けて青灰色に変色し、下部3/4は強く滓化し黒色ガラス化（黒曜石に似る）し、径約1~2cmの小鉄塊が数多く付着し錆化している。古代製鉄炉は箱形炉と豎形炉に分類され、さらに炉形の特徴から県内では菅ノ沢型と西浦北型に細分される〔穴沢 1987〕。前述した特徴から、本遺跡の炉壁片は豎形製鉄炉の菅ノ沢型の炉壁の可能性が考えられる。<sup>(註1)</sup>

県内の古代製鉄炉遺構の分布を見ると、前橋市の乙西尾引遺跡、伊勢崎市の今井見切塚遺跡、藤岡市の下日野金井窯跡、安中市の戸谷遺跡、太田市の菅ノ沢遺跡など、50基程が確認されているが、高崎市域では炉壁片を含め製鉄炉遺構の可能性を示す遺構や遺物が確認された報告事例はない。しかし、本遺跡から北西約1kmに位置する西島遺跡群Ⅳ（新保地区）からは製鉄炉とセット関係にある小鍛冶遺構（精錬・鍛錬遺構）が1軒<sup>(註2)</sup>確認されていること、本遺跡の南東約100mに位置する天田・川押遺跡からは平安時代の住居を主体に約80軒確認されており、隣接地に平安時代の集落が存在すること、出土した炉壁片は磨滅痕が無く、遠方から流出してきたとは考えにくい点などを考慮すると、本遺跡周辺に古代製鉄炉が存在していた可能性が指摘できる。

今回の調査で、高崎市域から古代製鉄炉の炉壁片が出土したことは大きな成果である。今後、周辺の調査が進展することにより、古代社会における製鉄炉のあり方が解明されて行くことを期待したい。

(註1) 笹澤泰史氏よりご教示を承った。

(註2) 住居内（5号住居）の小鍛冶遺構で、遺構中央部に炉が1基、周辺に3基のピットと作業台の配石が1カ所確認されている。ピット内からは、ルツボ・羽口・鉾滓・鉄製品・密教仏具『三鉢杵』の鋳型が出土している。帰属時期は10世紀後半と報告されている。

### 1号堀について

北隣約20mを東流する井野川に沿ってほぼ直線的に東西に走る堀を確認した。この堀は幅が4.60~4.00m、深さ1.15cmの薬研状の堀で、北側の傾斜に比べ南側は比較的緩やかな傾斜を持つ。堀の堆積中には、流水痕は認められないことから灌漑用水として使用された可能性は極めて低いものと思われる。下層の12・14層には、僅かな滞水痕が認められたが季節的または、一時的な滞水と思われ常時、空堀であった可能性が高い。遺物は上（1~5層）・中層（6~11層）から出土しており、特に堀の埋め戻し土である中層から出土した遺物は、14世紀~15世紀前半までの軟質陶器（鉢・片口鉢・内耳鍋片）にほぼ限定されていることから、堀が機能していた年代を示すものと思われる。以上の特徴から、この1号堀は中世館の堀の可能性が考えられる。

そこで館内について考えてみると、今回確認した1号堀は東西に延びる一辺のみの確認であるためどちらの方向に館内が存在したかは不明である。確証はないが幾つかの条件を基にその可能性について考えてみることにした。①1号堀の南側部分には、ほぼ同時期（多少新しい時期の可能性を残す）の土坑が2基確認されており、南側調査区外に建物などの関連施設が存在する可能性が考えられる点、②1号堀の北隣約20mには井野川が東流し、館が1号堀の北側に展開されている可能性が低い点、③本遺跡の東約500mに位置する村北・矢島前・村東遺跡（村北館）では、方形館の北東部分の館内に堀と接するように小規模な3号溝が並走しており、この配置関係が本館の小規模な1号溝が1号堀に沿って並走する関係と類似する。これらを勘案すると、本館の館内は、1号堀の南側調査区外に展開されている可能性が指摘できる。この1号溝が館の内部施設であるとすれば、館内の排水施設の可能性が挙げられる。土塁については、本館は後世の攪拌により土塁の基底部やその痕跡を確認することができなかったが、土塁が想定される堀の南側（館内）には前述したとおり1号堀と並走する1号溝が配置されていることから、土塁が構築されていなかった可能性と、構築されていない時期があった可能性の2種類が考えられる。このような類例は、天田館や村北館に求めることができる。各報告書には土塁の有無について記載されていないが、天田館を見ると堀のすぐ内際には掘立柱建物や井戸が構築されており、土塁が構築できるスペースが確保されていない。また、上記でも述べたが村北館でも北東部分のみ堀内際に並走する3号溝が接するように構築されており、土塁を構築するスペースがなく、双方の館とも状況は異なるが土塁が構築されていない可能性が指摘できる。本館も、その類例の一つに値する可能性が考えられ、今後の検討が必要と思われる。本館の構築時期は不明だが、遺構の特徴や遺物の年代観等から、15世紀前半頃までには衰退し廃絶された館と考えられる。

今回の調査で、中世城館の一端を垣間見ることができた。今後、周辺の調査が進展することによって、井野川流域を中心とした中世社会が次第に明らかになるものと思われる。

## 抄録

フリガナ	カミオオリイ カワオシイセキニ
書名	上大類・川押遺跡2
副書名	携帯電話用無線基地局建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第247集
編著者名	有限会社 高澤考古学研究所 高階 敏昭
編集機関	高崎市教育委員会
編集機関所在地	〒370-8501 群馬県高崎市高松町35番地1
発行年月日	西暦2009(平成21年)年8月31日

所収 遺跡	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
上大類・川押遺跡2	高崎市 上大類町川 押 64番地	102020	439	36° 20' 16"	139° 02' 17"	20090420	49㎡	携帯電話用無線基地局の鉄塔 建設
						～		
						20090424		
所収 遺跡	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
上大類・川押遺跡2	旧河川跡	古墳	旧河川跡	土師器		井野川と並行する旧河川跡を確認。7世紀代の土師器が少量出土。覆土にはFP軽石が含まれる。		
	製鉄炉	古代	—	製鉄炉の炉壁		1号堀から製鉄炉の炉壁が出土。		
	屋敷	中世	堀1条 溝1条 土坑2基	軟質陶器(片口鉢・鉢・内耳鍋) 灰釉陶器・土師器・須恵器・埴輪		・15世紀前半に埋没したものと考えられる中世館の堀跡を確認。 ・堀の南側に小規模の1号溝が並走する。		

## 参考文献

- 高崎市 2000 新編『高崎市史』 通年編2・中世  
高崎市 1996 新編『高崎市史』 資料編3・中世I  
群馬県史編さん委員会 1986 『群馬県史 資料3 中世3』 群馬県  
神戸聖語・中村茂 1985 『村北・矢島前・村東遺跡』 高崎市教育委員会61集  
神戸 聖語・福田敬一・茂田勝健・清水豊・江原邦博 1985 『宿大類町村西遺跡』 高崎市教育委員会75集  
長井正欣 1997 『高崎情報団地遺跡』 高崎市遺跡調査会第55集  
結城千尋・神戸聖語 1984 『天田II遺跡』 高崎市教育委員会第48集  
神戸聖語・中村茂 1986 『矢島村西・増殿遺跡』 高崎市教育委員会第71集  
結城千尋・神戸聖語・茂田勝健・竹内進 1983 『天田・川押遺跡』 高崎市教育委員会第41集  
笹澤泰史 2008 『研究紀要26 群埋文2号炉及び3号炉による豎形炉の製鉄実験報告』 群馬県埋蔵文化財調査事業団  
笹澤泰史 2007 『研究紀要25 群馬県における古代製鉄遺跡の出現と展開』 群馬県埋蔵文化財調査事業団

写 真 图 版





遺跡遠景 北東から



調査区全景 北西から



1号堀 セクション 西から



1号堀 底面状況 西から



1号堀 礫出土状況 西から



1号堀 貝・礫出土状況 東から



1号堀 貝出土状況 南西から



1号堀 片口貝出土状況 南西から



1号堀 貝出土状況 北西から



1号溝 セクション 西から





1号溝 底面状況 西から



1号土坑 全景 北から



2号土坑 全景 北東から



旧河川跡 堆積状況 北西から



旧河川跡 堆積状況 北から



基本堆積土層1 (調査区北東隅) 南から

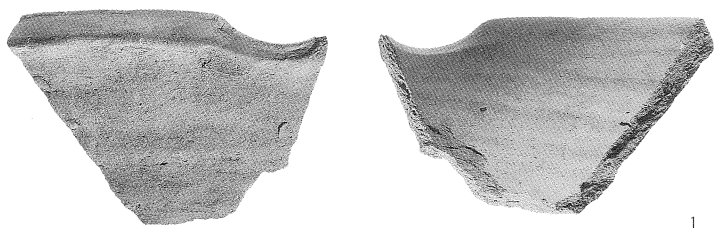


重機稼動状況 北から



作業風景 南東から

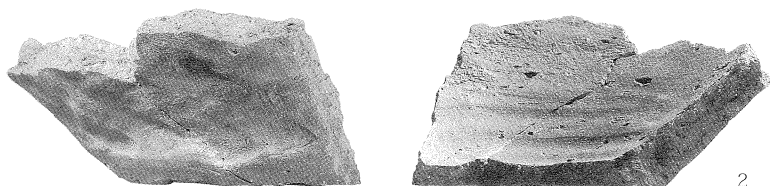




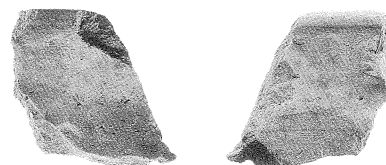
1



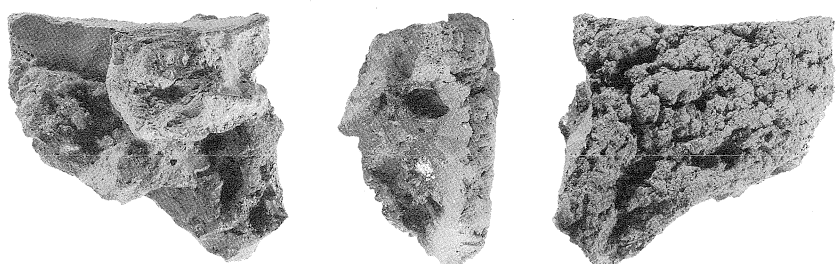
4



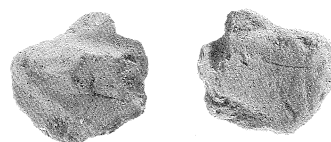
2



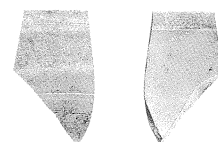
7



3



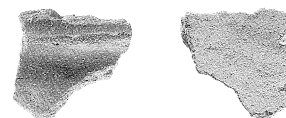
8



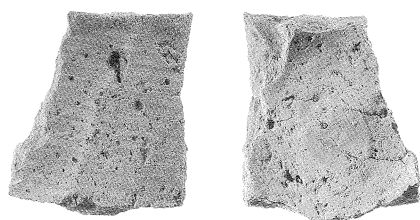
9



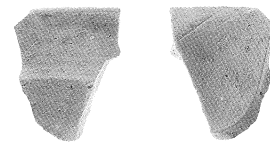
5



10



6



11

— 上大類・川押遺跡 2 —  
高崎市文化財調査報告書第 247 集

平成 21 年 8 月 25 日 印刷  
平成 21 年 8 月 31 日 発行

編集・発行 高崎市教育委員会  
印刷・製本 細谷印刷有限会社